

# デジカメ撮影の基本

## 長岡市視聴覚センター

1. 撮影の基本
2. ピント合わせのコツ
3. 撮影のテクニック
4. 風景撮影のポイント
5. マクロ撮影
6. マニュアル設定
7. コンピュータとの接続
8. デジカメのメモリとカードリーダー

# 撮影の基本

写真の 3要素 露出、ピント、構図」が、きれいに写真を写すための基本です。

## 露出

絞りとシャッタースピードを組み合わせて、光を適正な露出にします。通常は、自動露出撮影(AE)機能が働いています。

ただし、暗く写ったり(露出不足、露出アンダー)、明るすぎたり(露出過度、露出オーバー)することもあります。これを修正するのが露出補正です。

## ピント

人間の眼は自動的に見たいものにピントが合いますが、カメラは写したいものにピントを合わせなければいけません。ピント合わせは通常、オートフォーカス(AF)機能で自動であわせてくれます。

## 構図

人間の眼と写真では視角が異なります。

液晶モニターをよく見て、目的の被写体と周囲のバランスをとって撮影します。

# ピント合わせのコツ

## カメラブレの予防

- (1) カメラをしっかりと構える。
- (2) 高速シャッタースピードを選ぶ。
- (3) 三脚などで固定する。

## ピンボケの予防

- (1) 被写体を画面の真ん中で捉える。
- (2) 被写体の手前側に他のものをもってこない。
- (3) シャッターボタンを軽く押してピントをロックさせてからボタンを押し込む。

## ピントロック機能の活用

シャッターボタンを半押ししてピントを合せます。「ピピッ」と音がしてランプが点灯します。その後、シャッターボタンを押し込みます。

動きのあるものや被写体の構図を変えたいときなどは、あらかじめ被写体や同じ距離にある物体にカメラを向け半押ししてピントを合わせ、そのままボタンを戻さずに被写体を撮るとピンぼけを防げます。

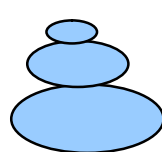
また、淡い色はピントをあわせにくいので同じ距離にある他のものでピントを合わせるとよいです。

# 撮影のテクニック

人物の撮影は

構図をいろいろ変えて撮ってみましょう。

- 角度を変える。
- アップで撮影する。
- 周りの風景を入れる。



ズームを使うと背景をぼかした感じで撮影することができます。

ポートレート風の撮影は、正面からでなく斜めから角度をつけて撮ります。

逆光での撮影は、フラッシュを強制的に発光するようにして撮影します。

屋内での撮影は

フラッシュの有無で、できあがり違ってきます。

フラッシュにより、被写体は明るいけど周囲が暗くなる時もあります。その場の雰囲気表現したい場合は、フラッシュを使わないとよいです。(その際は、手ぶれに注意)

# 風景撮影のポイント

シャッターを押すだけで、失敗無く写真を撮ることができますが、ありきたりの写真になりがちです。

## 遠近感のわかる構図で撮影

- 道や線路などを入れることによって遠近感を取り入れる。
- 斜めから撮影することによって奥行き感を出す。



## 縦位置と横位置を使い分ける

一般に風景は横位置が当たり前な感じですが、背の高いものがあるときは縦位置で撮影するとよいでしょう。

# マクロ撮影

ほとんどのデジタルカメラには、被写体に近づいて小さなものを大きくして写す機能が備わっています。これをマクロ撮影モードと呼んでいます。

撮影モードを切り替えるだけで、通常の撮影ではピントが合わせられないような近い被写体でも写すことができるようになります。

液晶モニターで撮影画像を直接見ながらフレーミングできるので、視差による構図誤差もありません。



花を写すときのポイント

- 1 光(ライティング)をよく見極めて撮影アングルを選ぶ。
- 2 ピントを正確に合わせる。ボケを上手に生かしてフレーミングする。
- 3 露出はアンダーにならないように、少しプラス側に露出補正して撮影する。

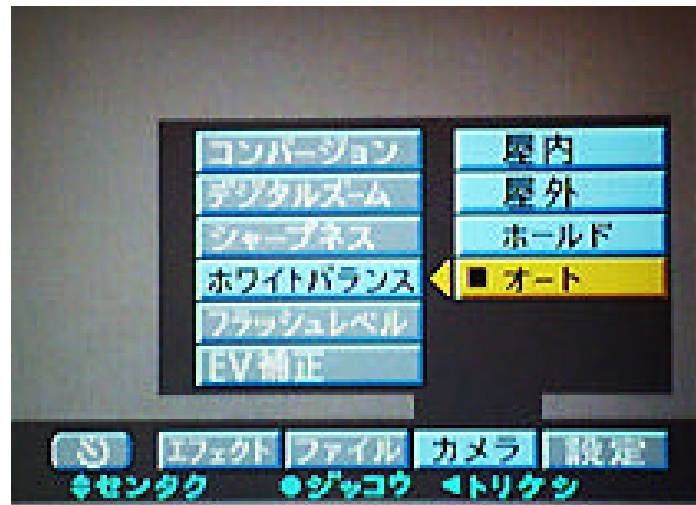
## マクロ撮影の注意点

- (1) 最短撮影可能距離に注意する
- (2) ピント合わせは落ち着いて、ゆっくり、確実に
- (3) カメラブレに注意する
- (4) カメラをしっかりホールドする
- (5) 広角クローズアップより望遠クローズアップを選ぶ
- (6) もっと拡大して写したいときはデジタルズームを活用する
- (7) フラッシュは光量を弱くするかOFFにして撮影する

# マニュアル設定

## ホワイトバランス

光源によって、オレンジが強くなったり、青が強くなったりします。設定で、電球モードや蛍光灯モード等を変更することで対処できます。



## 撮影解像度

用途に合わせたサイズにしましょう。写真印刷が目的でなければ、640×480のサイズで十分です。高画質にするとファイルサイズが大きくなります。

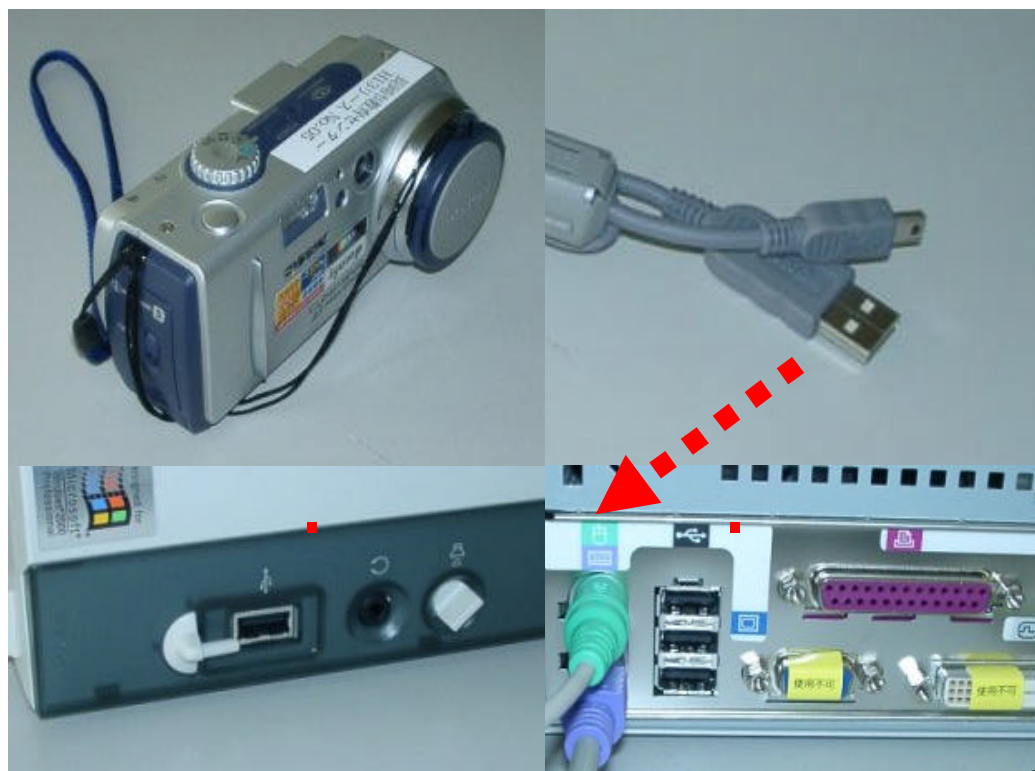
## 絞りと露出

絞りは、レンズから光を取り込む量を調節し、ピントの合う範囲を調整する機能です。絞りをあける (F2.8) とピントの合う範囲が狭くなります。絞りを絞る (F11) とピントの合う範囲が広がります。

露出は、シャッタースピードを変えなければ露出度を大きくすると明るくなります。

# コンピュータとの接続

最近のデジカメは、USB端子を使って接続するものがほとんどです。



パソコンとの接続には、いずれも専用のソフトをインストールしなければなりません。

インストール方法もあらかじめソフトを入れてから接続するものと、つないでからインストールするものがあるので手順に注意してください。

タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして、デジカメのドライブをクリックし終了します。

終了手順  
勝手に抜くとデータ破損  
の可能性があります。

Sony DSC - ドライブ (G) を安全に取り外します  
NEC USB Floppy - ドライブ (A) を安全に取り外します  
Macpower FRUB3W IEEE 1394 SBP2 Device

# デジカメのメモリとカードリーダー



デジカメのメモリ

廉価なデジカメでなければフィルムに相当するメモリを本体から外すことができます。

このメモリは、カードリーダーと呼ばれる装置でデータの読み書きが可能になります。

カードリーダー類

